

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201883		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 第1ユニット		
所在地	札幌市東区北11条東3丁目1-10		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年11月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170201883-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170201883-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新人職員も多くいるグループホームです。「自分の親もこのグループホームに入居させたいくなるグループホーム」を目指しております。施設環境では、1階の食堂、2階、3階が居住空間になっております。施設内行事は1階の食堂で2階、3階のご入居者様と一緒にこなしております。外出行事では、2階、3階のご入居者様と合同で出かけております。知識は足りないところも多くありますが、ご入居者様への愛情は強くあります。ご入居者様やご家族様が、「このハートの家でよかった、助かっています。」と思っただけのようなグループホームにしていきたいと思っております。そして、いいチームでいいケアを実践できるためにも、職員が働きやすい環境を作っていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ハートの家」は、地下鉄駅から徒歩5分ほどの住宅地に立地している2ユニットの事業所である。会社の社員寮を改築した3階建てで、共用空間や居室は広々としている。2・3階が各ユニットの居住で1階の居間や浴室をユニットの状況に応じて使用している。事業所の周辺には総合病院や幼稚園、神社、前にはコンビニエンスストアや近くに生鮮市場などがあり、生活の利便性に恵まれている。当事業所は、社会福祉法人パートナー経営最初のグループホームで平成16年に開設している。14年が経過し、地域との関係では行事を通して住民と交流し、定期的な地域ボランティアの来訪で、週1回の習字、音楽療法、傾聴、月に1～2回のマッサージなど、多彩な楽しみを提供している。防災では消防署、地域消防団と近隣住民の協力で避難訓練を行い、地震などの災害時マニュアルを詳細に作成し安全面も整備している。事業所内では、法人のバックアップの下に、今年度に交代した管理者が介護職の経験を活かしながら職員と共に理念に沿って熱心に取り組んでいる。研修など学ぶ機会も多い。職員と一緒に作成した介護計画の意向を大切に個別ケアを行っている。食事の楽しみを工夫し、外出の機会も多く、ドライブや受診時に病院の演奏会を楽しんだり、ビール園に出かけるなど職員は意向を聞いて温かな姿勢で対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階玄関や各階のフロア内に皆が見えやすい場所に掲載し、理念の共有に努めている。又、日々入居者様と職員が、ホームの理念にあるように、共に喜び合える暮らしを創れるよう努めている。	法人基本方針の内容を、事業所の運営方針とし理念として据えている。方針に「この地域の人や自然にふれあい…」の文言があり、年度始めや全体会議の中で内容を確認し、職員は行事の際に運営方針を意識して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内の行事(バーベキュー・敬老会など)にお誘いしています。また、花壇のお花の種植えをして下さったり交流を図っている。	地域の神社祭りに参加し、買い物などで住民と触れ合っている。事業所のバーベキュー行事には近所の方や町内会役員が参加している。多種の地域ボランティアの来訪もある。近くの幼稚園バザーを見学しているが、園児との交流には至っていない。	幼稚園との話し合いの中で、可能であれば園児との定期的な交流の場が得られるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の参加を通じて地域の人々に身近に感じて頂けるよう努め、2ヶ月に1回定期的に行っている。運営推進会議の中でもホームで生活されている認知症高齢者の生活の様子を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方やご家族様、地域包括の方にも出席していただき、ホームでの取り組み、町内会、ご家族様、地域包括との意見交換をし、ケアとサービスの向上に努めています。	2か月ごとに会議を開催し、行事、感染症、避難訓練などを報告している。今回の地震対応の説明で、近隣住民の避難場所として事業所を提供する話も出ている。家族の参加は1名と固定化しており、課題になっている。	テーマ設定の年間計画を作成し、年度始めに全家族に送付することを期待したい。また各会議案内にテーマを記載し、参加が難しい場合は意見を得て会議に活かし、家族の関心が深まるような工夫に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご入居者様の転倒事故等が起きた際には札幌市へ報告し再発防止に努め、また、確認事項がある際には連絡を取り連携を図るよう努めている。	書類の提出時に市役所を訪問し、担当者とのケアの方法などを話し合っている。区にはおむつ申請で担当者に確認したり、生活保護課担当者とは必要に応じて連絡や情報を交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を3ヶ月に1回開催し、施設内研修や職員会議の場で勉強会を行っている。	事業所内に委員会を設置し、役職者でグレーゾーンの内容を確認し、認知症への関わり方を全体会議で周知している。勉強会で拘束をしない方法を共有し、身体拘束禁止行為11項目の内容も理解している。言葉遣いや口調で気になる時は会議に取り上げて話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修や会議での勉強会を実地しケアの中で見守り・声掛け等関わり方の仕方など虐待について防止に努めている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はしていないが管理者や職員は制度内容を外部研修等で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの見学時や契約時に、契約書や入居のしおりで料金等の説明をしている。又、介護保険制度の改正時にはご家族様に書面で説明し、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階玄関に意見箱を設置している他にご家族様が面会に来られた際に要望がないか確認したり、運営推進会議の中でもお伺いしている。	家族の来訪時に状態を伝える中で、ケア面の話し合いや介護計画の意向を聞いている。家族の意見などを口頭で伝え、対応を話し合うこともある。「ハート新聞」の原本紙面に担当職員が写真やメッセージを添えて毎月送っている。	職員の気付きも含めて家族の意向を利用者ごとに記録し、言葉にできない個別の些細な思いを職員が記録で共有できる工夫に期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、申し送りで職員の意見や質問を聴いている。確認が必要な時には、上司に確認してから職員へ返答する。	毎月全体会議で行事企画案や研修を行い、ユニット会議ではケアについて意見交換している。管理者は職員と定期的な面談の中で、自己目標の達成度なども話し合っている。職員は交代で行事企画、物品発注、清掃・装飾の各係を担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員処遇改善の実地や正規職員の登用、内外部研修への参加など就業環境の整備と見直しをしている。また、労働時間や労働日数の調整すす等、働きやすい環境を作れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格取得ができるように法人内のキャリアアップ制度の活用や、外部研修にも参加できるように配慮している。また、法人内の研修を開催し、職員の個々の能力の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加し意見交換を行い、ホームに活かせるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご本人様とお会いして、現在の身体面や不安に感じている事や要望などをお伺いし、不安を軽減できるように、ご本人様のお話を傾聴し、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時にご本人様やご家族様から要望や悩み、不安を感じている事などをお聴きし、相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時に、ご本人様やご家族様と十分に相談を行った上で、必要に応じて福祉用具やその他のサービス(金銭管理)などの検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が何を何処まで出来るのか状況を確認しながら職員は個々に応じてサービス内容を検討し、入居者様同士の関わりを作れるように努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの作成の際にはご家族様の意見を伺ったり、ホーム来訪時には現在の状態や日々の生活の様子を伝えており、時には相談させて頂くこともある。また、月1回本人様の生活風景や近況報告のため、ハート新聞を作成し、ご家族様にお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の馴染みのある家具等を持ってきていただいている。ご家族様の了承を得てご本人様の馴染みのある方が来られた時には、面会をして頂き関係が途切れないように支援を務めている。	前に居住していた近くの友人が来訪し、外食に出かける利用者もいる。以前に関わりがあった場所で知人に会っている。家族と法事に参加したり、通院の帰りに外食をしている。職員の支援で利用者は近くの生鮮市場で買い物を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで過ごされている入居者様が多い為、常に入居者様の様子を把握できる。また、職員が寄り添い、一人にならないように努めている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	外部評価(事業所全体)		
			自己評価(第1ユニット)	実施状況	実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居で退去になっても、ご家族様への手紙や電話連絡で、ご様子をお伺いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話で思いや暮らしについて伺い、個人記録に残しています。ご本人様にお伺いできない場合には、ご家族様へお伺いし情報収集しています。	日々の会話や問いかけの反応から思いを把握している。センター方式のアセスメント表を年に1回は更新しており、今後は計画の見直し時に、【B-3シート】で変化も追記しながら共有を考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅や住み慣れた地域で、どのように生活をされていたのか、情報収集に努めている。入居後はその情報を参考にし、第2の住みかになるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の生活習慣(過ごし方)や日々の身体面や認知面の変化を見逃さないように個人記録や申し送りノートなどを活用し情報を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活していく上で何が重要か職員間で意見を出し合っている。必要に応じてご家族様、主治医からも相談、助言を頂きより良いサービスの提供が出来るようサービス内容を検討している。	3か月ごとに計画を見直し、担当職員のモニタリングを基にサービス担当者会議で評価して介護計画を作成している。日々の記録では、短期目標の項目に沿って支援内容の実施と、いつもと違う様子も記録して見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に食事量、水分、排泄状況を記録している。ケアプラン内容の実践評価や、生活状況を記録し、毎日の様子を比べながら共有することができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みのある在宅生活のような家庭的な雰囲気大切に、個別ケアに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや行事に参加し、地域資源を活用できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望に応じて、かかりつけの病院を洗濯し、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の受診を継続し、基本的には職員が同行し、主治医の説明がある時は、家族も同行している。協力医療機関の往診を受けており、受診内容は病院別に記録し個別の管理で共有している。	

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調不良時などは即座にかかりつけの病院(往診クリニック)へ連絡し、指示をいただくなど、クリニックの看護師と連携を密に図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院や退院時にはご家族様を含めて現在の状況を把握して情報の共有を行い、退院の際には、看護添書等の情報を基にかかりつけ病院との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時からご本人様とご家族様の意向を確認している。また、主治医、ご家族様、ホーム側の職員と交えて今後起こりうるリスクや延命治療等、話し合い、今後の方針を共有している。	利用開始時に「重度化対応に関する指針」の説明をし、条件が合えば看取りが可能な事も伝え同意を得ている。状態変化に応じて関係者で話し合い、主治医の指導の下で看取りを実施している。今後は研修も行い、看取りケアの対応を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網、マニュアルがあり職員対応している。また、AEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実地、町内会の方々、地域の消防団の方々のご協力もあり、又、ご入居者様、職員の参加もあり、危険意識が高まっている。	消防署と地域消防団の協力で昼夜想定避難訓練を実施し、近隣住民の参加も得ている。地震や風水害のマニュアルを作成し、地震時のケア別の対応を詳細に記載し共有している。今回の地震災害で備蓄品の見直しや保管方法を検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の立場になって、言葉掛けや関わりを行っている。また、入居者様個々の人格を尊重するように意識している。	利用者への呼びかけは苗字に「さん」づけを基本としている。内部研修で認知症対応について学んでいる。申し送りは個人名を出さないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の難しい方には表情を観察し、個々の思いに合わせた声掛けを行ない、出来る限り希望に添えるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣や暮らしのペースに合わせて声掛けや関わりを行い、日中の過ごし方も希望に添えるように買物や趣味活動を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中で整容に心掛けており、2ヶ月に1回の訪問美容室や外出の際の着替え(お洒落な洋服)または、お化粧品などにも気を配っている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に野菜の皮むき、食器拭き等お手伝いして頂いています。又、希望に沿ったメニューの提供が出来るよう支援しています。	献立は、利用者の好みを取り入れて職員が作成している。味噌汁や煮魚などを一緒に作る利用者もいる。行事に合わせてバーベキューやバイキングを楽しんだり、出張握り寿司などを味わっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を個人記録に記載し、水分量が一日を通じて確保できるよう支援している。食事が進まない場合にはエンシュアを飲んで頂き、栄養の確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの支援を行っている。また、定期的に歯科往診に来て戴き、入居者様の口腔内の状態を確認している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄ができるようにお声かけしている。個人記録に排尿、排便回数を記載しているため、排泄パターンを把握することができる。	総合記録シートに全員の排泄を記録して、羞恥心に配慮しながら声かけや誘導を行っている。着脱動作など、可能な限り本人ができるように声かけを工夫しながら、昼夜共にトイレでの排泄が継続できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際に、乳製品や朝食時に牛乳を飲んでいただいている。また、トイレで腹部マッサージや身体を動かすなどして自然排便につなげるように取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様に入浴時間など伺い、体調にも考慮し、その方に合わせた入浴方法で入浴をしていただいている。体調不良等で入浴できない場合には清拭をしている。	毎日、午前から午後まで入浴が可能で、一人週2回の入浴を支援している。湯船に入ってゆっくり入浴が楽しめるように、身体状況に応じてスライド式のシャワーキャリーを使用することもある。湯温や入浴時間など利用者の意向を大切にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて休息していただいている。また、夜間は静かな環境を作り、安心して眠られるよう居室等の明るさ、音など配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を共有できるように、個人ファイルにて管理している。また、お薬ノート、受診用の記録用紙に記載し、職員全員が確認し把握できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等をして頂く等、個々の役割をもって頂いている。また、畑の水やり、ホーム近辺の散歩、外出レク等を企画し楽しみや、気分転換を図れるように行っている。			

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第1ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に沿って定期的な外出レク(買物やお食事レク、など)やドライブ等で気分転換を図っている。	普段は、車椅子の方も一緒に近隣を散歩したり近くの公園に出かけている。年数回、外食やおやつレクで個別に出かけたり、桜の社公園でのお花見や旭山公園の紅葉見学など季節に応じて外出している。春は野菜を植えたり、冬季も車窓から雪まつりを楽しむなど年間を通して外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方には職員と一緒に支払いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に手紙を出したり、電話されている。自分で電話をかけることが出来ない方は職員と一緒に行なわせていただく。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間やテーブルに季節の花を飾り四季を感じられるように努めており、また季節や行事などの写真が見える所に飾ることで季節を感じて頂く。	窓に面した明るい居間は、一人ひとりの利用者が落ち着いて過ごせるようにソファなどを工夫して配置している。廊下の壁には、楽しい表題を付けた微笑ましい利用者の写真が掲示してある。利用者と一緒に作成した季節の折り紙や貼り絵などがさりげなく飾られており、家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階居間の椅子(ソファ)やテーブルを置き、お一人で過ごしたり、仲の良い入居者様同士で談話できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やお気に入りの物、日用品などを持ち込んでいただき、快適に生活ができるように個々に工夫している。	居室には造りつけの押し入れや戸袋があり、洋服ダンスも備えている。使い慣れた籐の椅子や茶箆などを持ち込んで、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。家族の写真や趣味の物なども多く、その人らしい室内になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下に手すりの設置、座席の工夫、安全面を考慮し適度な居間のスペース等、安全な環境作りを行っている。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201883		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 第2ユニット		
所在地	札幌市東区北11条東3丁目1-10		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新入職員も多くいるグループホームです。「自分の親もこのグループホームに入居させたいくなるグループホーム」を目指しております。施設環境では、1階の食堂、2階、3階が居住空間になっております。施設内行事は1階の食堂で2階、3階のご入居者様と一緒にこなしております。外出行事では、2階、3階のご入居者様と合同で出かけております。知識は足りないところも多くありますが、ご入居者様への愛情は強くあります。ご入居者様やご家族様が、「このハートの家でよかった、助かっています。」と思っただけのようなグループホームにしていきたいと思っております。そして、いいチームでいいケアを実践できるためにも、職員が働きやすい環境を作っていきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170201883-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170201883-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年11月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階玄関や各階のフロア内に皆が見えやすい場所に掲載し、理念の共有に努めている。又、日々入居者様と職員が、ホームの理念にあるように、共に喜び合える暮らしを創れるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内の行事(バーベキュー・敬老会など)にお誘いしています。また、花壇のお花の植え替えをして下さったり交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事の参加を通じて地域の人々に身近に感じて頂けるよう努め、2ヶ月に1回定期的に行っている。運営推進会議の中でもホームで生活されている認知症高齢者の生活の様子を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方やご家族様、地域包括の方にも出席していただき、ホームでの取り組み、町内会、ご家族様、地域包括との意見交換をし、ケアとサービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご入居者様の転倒事故等が起きた際には札幌市へ報告し再発防止に努め、また、確認事項がある際には連絡を取り連携を図るよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を3ヶ月に1回開催し、施設内研修や職員会議の場で勉強会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会で学んだことを会議等で発表し、外部の研修に参加し、防止に努めるようにする。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はしていないが管理者や職員は制度内容を外部研修等で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホームの見学時や契約時に、契約書や入居のしおりで料金等の説明をしている。又、介護保険制度の改正時にはご家族様に書面で説明し、同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階玄関に意見箱を設置している他にご家族様が面会に来られた際に要望がないか確認したり、運営推進会議の中でもお伺いしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、申し送りで職員の意見や質問を聴いている。確認が必要な時には、上司に確認してから職員へ返答する。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員処遇改善の実地や正規職員の登用、内外部研修への参加など就業環境の整備と見直しをしている。また、労働時間や労働日数の調整せず等、働きやすい環境を作れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格取得ができるように法人内のキャリアアップ制度の活用や、外部研修にも参加できるように配慮している。また、法人内の研修を開催し、職員の個々の能力の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市や東区の管理者会議、外部研修に参加し、他の事業所との交流する機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ずご本人様とお会いして、現在の身体面や不安に感じている事や要望などをお伺いし、不安を軽減できるように、ご本人様のお話を傾聴し、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時にご本人様やご家族様から要望や悩み、不安を感じている事などをお聴きし、相談しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時に、ご本人様やご家族様と十分に相談を行った上で、必要に応じて福祉用具やその他のサービス(金銭管理)などの検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が何を何処まで出来るのか状況を確認しながら職員は個々に応じてサービス内容を検討し、入居者様同士の関わりを作れるように努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランの作成の際にはご家族様の意見を伺ったり、ホーム来訪時には現在の状態や日々の生活の様子を伝えており、時には相談させて頂くこともある。また、月1回ご本人様の生活風景や近況報告のため、ハート新聞を作成し、ご家族様にお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の馴染みのある家具等を持ってきていただいている。ご家族様の了承を得てご本人様の馴染みのある方が来られた時には、面会をして頂き関係が途切れないように支援を努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアで過ごされている入居者様が多い為、常に入居者様の様子を把握できる。また、職員が寄り添い、一人にならないように努めている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居で退去になっても、ご家族様への手紙や電話連絡で、ご様子をお伺いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話で思いや暮らしについて伺い、個人記録に残しています。ご本人様にお伺いできない場合には、ご家族様へお伺いし情報収集しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅や住み慣れた地域で、どのように生活をされていたのか、情報収集に努めている。入居後はその情報を参考にし、第2の住みかになるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の生活習慣(過ごし方)や日々の身体面や認知面の変化を見逃さないように個人記録や申し送りノートなどを活用し情報を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活していく上で何が重要か職員間で意見を出し合っている。必要に応じてご家族様、主治医からも相談、助言を頂きより良いサービスの提供が出来るようサービス内容を検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に食事量、水分、排泄状況を記録している。ケアプラン内容の実践評価や、生活状況を記録し、毎日の様子を比べながら共有することができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みのある在宅生活のような家庭的な雰囲気大切に、個別ケアに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや行事に参加し、地域資源を活用できるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望に応じて、かかりつけの病院を洗濯し、適切な医療が受けられるよう支援している。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調不良時などは即座にかかりつけの病院(往診クリニック)へ連絡し、指示をいただくなど、クリニックの看護師と連携を密に図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院や退院時にはご家族様を含めて現在の状況を把握して情報の共有を行い、退院の際には、看護添書等の情報を基にかかりつけ病院との連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時からご本人様とご家族様の意向を確認している。また、主治医、ご家族様、ホーム側の職員と交えて今後起こりうるリスクや延命治療等、話し合い、今後の方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網、マニュアルがあり職員対応している。また、AEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実地、町内会の方々、地域の消防団の方々のご協力もあり、又、ご入居者様、職員の参加もあり、危険意識が高まっている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の立場になって、言葉掛けや関わりを行っている。また、入居者様個々の人格を尊重するように意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の難しい方には表情を観察し、個々の思いに合わせた声掛けを行ない、出来る限り希望に添えるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣や暮らしのペースに合わせて声掛けや関わりを行い、日中の過ごし方も希望に添えるように買物や趣味活動を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中で整容に心掛けており、2ヶ月に1回の訪問美容室や外出の際の着替え(お洒落な洋服)または、お化粧品などにも気を配っている。		

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に野菜の皮むき、食器拭き等お手伝いして頂いています。又、希望に沿ったメニューの提供が出来るよう支援しています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を個人記録に記載し、水分量が一日を通じて確保できるよう支援している。食事が進まない場合にはエンシュアを飲んで頂き、栄養の確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの支援を行っている。また、定期的に歯科往診に来て戴き、入居者様の口腔内の状態を確認している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄ができるようにお声かけしている。個人記録に排尿、排便回数を記載しているため、排泄パターンを把握することができる。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際に、乳製品や朝食時に牛乳を飲んでいただいている。また、トイレで腹部マッサージや身体を動かすなどして自然排便につなげるように取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様に入浴時間など伺い、体調にも考慮し、その方に合わせた入浴方法で入浴をしていただいている。体調不良等で入浴できない場合には清拭をしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて休息していただいている。また、夜間は静かな環境を作り、安心して眠られるよう居室等の明るさ、音など配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を共有できるように、個人ファイルにて管理している。また、お薬ノート、受診用の記録用紙に記載し、職員全員が確認し把握できるようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等をして頂く等、個々の役割をもって頂いている。また、畑の水やり、ホーム近辺の散歩、外出レク等を企画し楽しみや、気分転換を図れるように行っている。			

グループホーム ハートの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(第2ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に沿って定期的な外出レク(買物やお食事レク、など)やドライブ等で気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方には職員と一緒に支払いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に手紙を出したり、電話されている。自分で電話をかけることが出来ない方は職員と一緒に進めさせていただく。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間やテーブルに季節の花を飾り四季を感じられるように努めており、また季節や行事などの写真を見える所に飾ることで季節を感じて頂く。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階居間の椅子(ソファー)やテーブルを置き、一人で過ごしたり、仲の良い入居者様同士で談話できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やお気に入りの物、日用品などを持ち込んでいただき、快適に生活ができるように個々に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室や廊下に手すりの設置、座席の工夫、安全面を考慮し適度な居間のスペース等、安全な環境作りを行っている。		



## 目標達成計画

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域とのつきあいにおいて、地域の神社祭りへの参加、又、事業所のバーベキュー行事等には近隣の方々へ参加して頂いているが、施設近くの幼稚園への関わりが薄いこともあり、園児との交流が今後の課題と考えています。	クリスマスや敬老会など、年間を通し施設内の行事に参加していただき、歌の披露や利用者の関わりが増えていくことにより、地域との交流をますます活性化できるようにすることを目指しております。	施設内の行事の際に都度お声をさせていただくと、日頃、ご利用者の近隣の散歩などで幼稚園を訪れることにより、日頃から良好な関係を深めていくことに繋がると考え、取り組みを行っていきます。	1年
2	4	2ヶ月に一度開催させていただいております運営推進会議につきまして参加人数が少数であり、又、出席者が固定されている現状を課題とさせていただきます。	ご家族方へ、運営推進会議のご案内として書類の送付をさせていただき、年間に数回の運営推進会議のいずれかにはご出席していただけることを目指しております。	毎月、ご家族への書類を送付させていただいている内容に運営推進会議の年間予定表を配布し、又、日頃ご家族の来訪時に運営推進会議についてのご意見・ご要望をお聞きし、年間通しいずれかに参加していただけるよう取り組みを行っていきます。	1年
3	10	ご家族様の来訪時にご利用者の心身の状況をお伝えさせていただいています。その際にご家族からのご意見・ご要望をお尋ねし、職員間での口頭で情報を伝達し合い介護計画に反映させている。	ご家族のご意向をご利用者ごとに記録し、言葉にできない個別の些細な思いを職員が記録で共有できるように目指しております。	ご家族の来訪時、ご利用者との関わりの中から言葉にできない思いがないかというお気持ちをくみ、記録化にすることにより職員間で情報共有する。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。